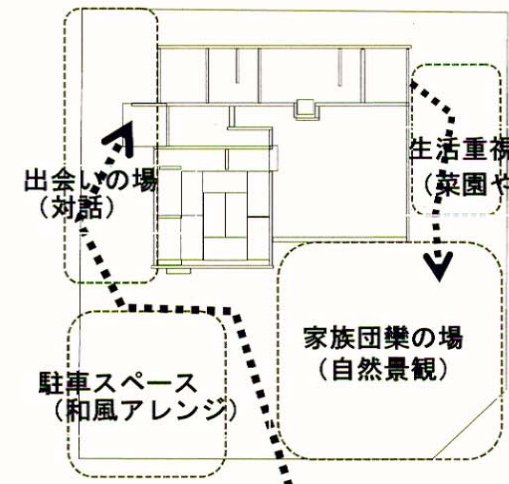


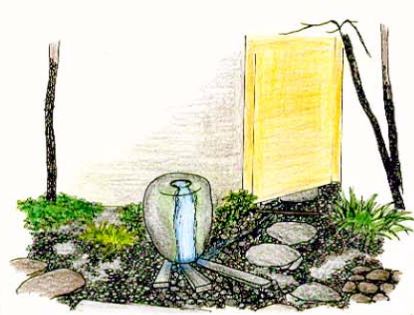
住宅庭園計画図

五感を刺激されることで生活に潤いがもたされる庭



庭のゾーニング図

最近家族の絆が希薄化していることから、庭の中で家族団樂を楽しむことができる庭をイメージしています。そのため、大きく4つに区分して設計しています。特に、広さと自然景觀を重視して設計をしています。また、主庭では日向ぼっこができるウッドデッキを設け、四季折々の景色を楽しむ空間にしたいと考えて設計しています。



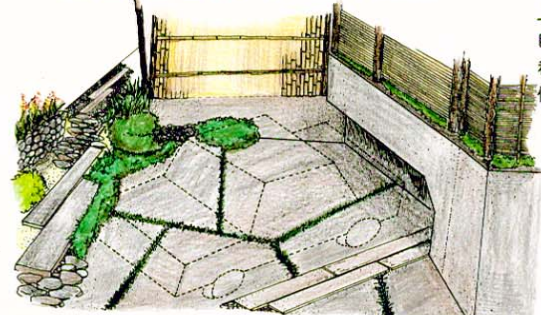
前庭透視図

この住宅庭園に入る入り口には短冊石の飛び石を設置してあります。純和風のイメージでまとめました。前庭は、歩きやすく落ち着いた雰囲気になっています。また、西側に位置していることもあり、西日の強い日差しを和らげる意味も兼ね、立手水鉢を配置することで来訪者に清涼感を感じさせるとともに、全面砂利敷きをしているためシンブルでかつ落ち着いた雰囲気を感じさせています。ここから流れ出た水が主庭の池に流れ込むように繋がりが庭園同士の連帯感を感じさせる設計にしています。



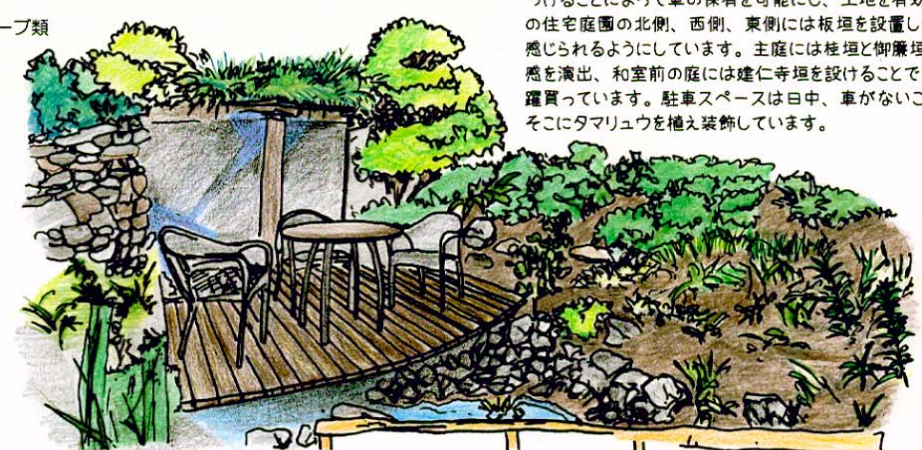
浴室から見たプライベートガーデン

この住宅庭園には杯型の水鉢が玄関前と風呂の西側に設置されています。水鉢を設置することにより水に恵まれた環境であることを表すことも出来、また、雨水などが溜まっていくことから、自然の情景を感じ、さながら森の中にある廃墟を思い浮かべることが出来ます。浴室の外観からの透視は、鉄平石の小端積みによって遮断され孤立したプライベート空間になっています。他にも風呂や玄関の西側に築山で盛った上に光悦寺垣を配置してあり外から隠すまた遮断することを目的として配置されています。水鉢の周辺に配置してある砂利の上に飛び石や枕木を設置することにより歩きやすさを確保したり、また別の景觀を確保することが出来ます。



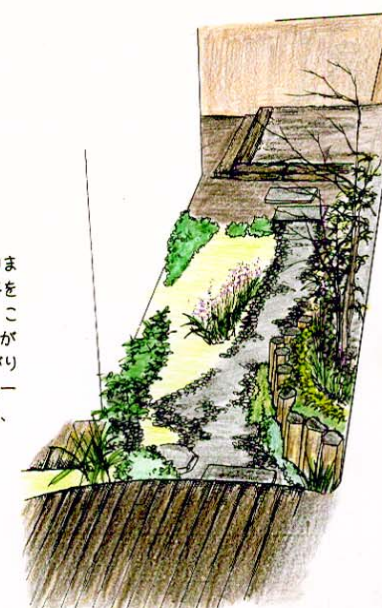
駐車場とアプローチのイメージ図

この住宅庭園の南側の通りに面している所に駐車スペースを設けてあります。この駐車スペースは少ない土地でも十分な広さを確保するために傾斜をつけることによって車の保有を可能にし、土地を有効活用しています。また、この住宅庭園の北側、西側、東側には板垣を設置し狭い敷地を広く奥行き感が感じられるようにしています。主庭には柱垣と御簾垣を配置し、装飾性と広がり感を演出、和室前の庭には建仁寺垣を設けることでプライバシーの確保にも一躍買っています。駐車スペースは日中、車がないことから床に割れ目を設け、そこにタマリユを植え装飾しています。



主庭透視図

この住宅庭園にはウッドデッキが主庭の北側と南側に一つずつ配置されています。南側と北側は形も大きさも違い、南側は四分の一円形のウッドデッキとなっており、ウッドデッキの中には廃屋を想像させる小屋を設け、屋根に生えた下草や樹木がより自然らしさを演出しています。ここでは、日常生活の中で読書を楽しんだり黄昏することや束の間の休憩でもストレス社会から離れメンタル面のリフレッシュをするのに役立つことでしょう。北側のウッドデッキではリビングダイニングルームから一歩、足を踏み出すとウッドデッキの下を流れる流れの中に水中生物や小動物を観察したり、自然の中で昆虫たちの営みを見ることが出来ます。このウッドデッキに立つと朝は清々しい気分になること間違いのないと思います。



東側庭園のイメージ図

この住宅庭園には砂利で敷かれた場所がいくつもあります。砂利を使うことで煉瓦や土路とは違った景觀になりました。枯山水式のように水が流れていることを表現することが出来ます。その他にも踏むと足跡がついたり、物音がするので防犯上のもでも役に立ちます。この住宅庭園には家庭菜園があります。自然を楽しむ、家族には無農薬の安全な野菜を提供したいという考えを夢見る方も少なくないことから、家庭菜園を日差しが期待できる東側の庭園に設けました。家庭菜園は、小さい子供の土遊びや昆虫などの生物とのふれあいの場となることから様々な野菜が作られることを想像して配置しました。また、この住宅庭園には六方石による緑石のハーブガーデンを設けました。ハーブは生活に潤いを持たせるだけでなく、害虫の忌避効果も期待できます。この空間は実用性を重視した作りのために、水道を設け、日常生活の中で最も活用される空間になることでしょう。

設計主旨

この住宅庭園は落ち着いた日々を過ごせる空間を目指しています。この住宅庭園の最大のポイントは何と言っても自然に囲まれた南側のウッドデッキです。ウッドデッキの上には休憩用のスペースがありリラックスして読書や休憩を楽しむことが出来ます。またこのウッドデッキの北側にはもう一つのウッドデッキを挟むようにして川があり心を落ち着けることが出来ます。この住宅庭園は砂利が多く使用してある事から人や動物が踏むことで音として観賞する事を可能としました、防犯目的としてもとても役に立ちます。その他にもこの住宅庭園は五感を最大限に活用する事の出来る空間です。まず、『目』です。この空間には見て楽しむ事の出来るものが多数存在します。例えば季節の移り変わりで散っていく樹木、水の動きと滴る葉を二つあるウッドデッキから観察する事等が出来ます。次に、『耳』です。聴覚を使う事により見えないものを感じ取る事が出来ます。風と樹木の二重奏や忍び寄る足音、跳ねる水滴、鳥や動物のざわめき等を聞く事が出来ます。次は、『口』です。口では無味という表現が正しいかもしれませんがそのものの持つ風味を味わう事が出来ます。庭木の果実や葉、樹皮、根、流れ行く水や溜まる水を味わう事が出来ます。その次に、『鼻』です。鼻をふんだんに活用して匂いを嗅ぎ取る事が出来ます。季節の香り、水の香り、木の香り等を嗅ぐ事が出来ます。最後に『触れる』です。手や足といった体の隅々で触れる事により、よりよく感じられます。触感や肌触り、形状や重さ等を触れる事により感じる事ができるそんな庭園にあなたも癒されると思います。